

〔一〕 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

まず、「カッコいい」の語源は「恰好」^(注1)であり、これは『白氏文集』^(注2)とともに九世紀半ばには日本に輸入されていたが、使用され始めたのは、室町時代から江戸時代にかけて、五山の禅僧たちがカンセキの再読を行った時期である。その意味は、「あるものとあるものがうまく調和する・対応する」という理想的な状態を指すものだった。

その後、「恰好が良い」、「恰好が悪い」という同義反復的な表現で、調和の程度が意識されるようになる。まず一般にその理想像が理解されている前提で、それとズレているかどうかだけでなく、標準的なモデルを中心に、その上下が序列化された。「恰好が悪い」というのは、理想に満たないというより、標準以下という意味である。

「恰好」は今日の中国語では使用されておらず、これは日本で独特に発展した概念である。

「恰好が良い／悪い」の判断が出来るのは、専門家や良い趣味を備えた通人^Bである。マスメディアが十分に発達するまで、この限られた人たちの評価が全国的に共有されるということはなかった。従って、各分野の「恰好が良い」の影響も限定的だった。

「恰好が良い」ものは、見る者を快くする。一方、「恰好が悪い」ものは気持ちが悪く、殊にそれが自分に関するものであるならば、羞恥心を覚える。その場合、理想的なほどに秀でることまでは望まれず、せめて標準的であることが出来れば、羞恥心は解消される。

「恰好」とは別に、宋学を通じて発展し、日本に輸入された「義理」という概念も、個人のあるべき姿、という意味では、恐らく「カッコいい」という言葉の源流の一つとなっている。重要なのは、これが社会の「人倫の空白」^Aを埋める機能を果たしたことであり、一方では武士道に於ける主従関係の規範を形成し、他方ではショミンの日常生活の規範へと転じた。

「カッコいい」という言葉が爆発的に流行したのは、一九六〇年代以降である。戦後、数多くの流行語が生まれては消えていったが、「カッコいい」は、今日に至るまで一度として廃れることなく、日常の会話に定着している。

この言葉を戦前から逸早く使用し始めたのは、音楽関係者だという説が有力である。

「カッコいい」は、「恰好が良い」が形容詞化したものであり、その理想像との合致^カ という意味は残存した。他方で、ある対象が、「しびれる」ような生理的興奮をもたらし、強い所有願望、同化・模倣願望を掻き立てる時に、私たちはそれを「カッコいい」と表すようになった。

「恰好が良い」が、あるジャンル内の評価であるのに対して、「カッコいい」は、ジャンルを前提とせず^エに下せる評価である点に特徴がある。その根拠は、長年、専門家の間でツチカ^エわれた趣味や理論ではなく、素朴な「体感」であり、だからこそ、評者の資格は、身体を備えたすべての人間に開かれることになる。

社会はつまり、個人の生理的機能をそのシステムに組み込んで、近代以降、次々に生み出されるようになった多様な新しいものの価値判断を、「しびれ」の有無を通じて、分散処理的^シに行うようになったのである。

多くの人間に鳥肌を立たせる存在は、「カッコいい」であり、それは、資本主義と民主主義とが組み合わせられた世界^オでは、絶大な力を発揮するのであった。

個人の側からすると、自分の人生の時間を費やす対象を、上から画一的に押しつけられるのではなく、「しびれ」を通じて、主体的に選択できるようになった。

「カッコいい」は、この決して疑いようのない体感によって、個人のアイデンティティに深く根差すことになる。なぜなら、すべての人間が、その時「しびれて」いるわけではなく、自分はこのように鳥肌が立つ人間なのだけ^カということは、一つの自己発見だからである。そして、多くの人がとある対象に「しびれて」いる時でも、その強度^ドの競争によって、自分が特権的なファンであることを信じたくなるのである。

「経験する自己」のこの「しびれ」は、^(注3)「物語る自己」によって言語化される。

実際には、この「しびれる」ような生理的興奮は、美しさや崇高さ、勇敢さ、凛々^リしさ、見事さ、華麗さ、聡明^{ソウ}さ、……と、様々なことに触れて引き起こされるが、「カッコいい」という言葉は、その多くを引き受けているし、そうした経験を与えてくれる存在は「カッコいい」と認識される。

この時、外部環境が大きな意味を有しているので、他者がそこに介入することがあり得る。意識的、無意識的を問わず、「カッコいい」存在自体も、この生理的興奮を複合的な要因で引き起こし、言語化を誘導しているのである。

「しびれ」が快感として自覚されると、それを反復的に経験したくなる。なぜならそれは、喜びであり、自分の生に実感を与えてくれるからである。自傷行為的な痛みが、自己に対する否定的な「生きている」刺激であるとするならば、この「しびれ」は、肯定的な刺激である。

私たちは、鳥肌を立たせてくれる対象に魅了され、夢中になり、「カッコいい」という言葉を得て、憧れを抱き、同化・模倣願望を抱くようになる。自らその世界観を再現しようとし、必死の努力を重ねる。あるいは、その人のいる場所に足を運び、その人を想起させるものを買集める。「カッコいい」対象の「一挙手一投足」に注目し、その言動に注目する。一時的に消費するだけのこともあれば、その分人を生きることが、生き甲斐になることさえある。

これに対して、「カッコいい」存在に、何かしら自分と共通する点を見出し、共感を抱いた人は、その対象を理想化する。事後的に、「これが自分の求めていたものだ！」と気がつき、以後の価値判断のシヤクドとするようになる。重要なのは、遠さと近さの同居であり、自分とは凡そ懸け離れているはずなのに、どこか自分自身のように感じられることである。ここに至って、六〇年代以降の「カッコいい」は、その原義である「恰好が良い」に接続され、非日常体験は日常化されるわけだが、ただし、その理想像は、「恰好が良い」のように他者に予め共有されているわけではないので、趣味を同じくする「仲間」が求められることになる。これが、著名人や人気商品のファン・コミュニティであり、それを実現するのはメディアである。

今日のマーケティングでも、ファン・コミュニティの重要さは喧しく強調されているが、なぜならば、その場所がないと、個々の「しびれる」ような体験は、孤立したまま放置されてしまうからである。そして、このコミュニティは、内的には強いケツソクを実現するが、しばしば排他的であり、他のコミュニティとの相互の理解には困難が伴う。

とは言え、実際に多くの人間にとって重要なのは、「カッコいい」ことよりも、「カッコ悪くない」ことであり、「ダサイ」

と目されることの羞恥心や屈辱感も、否定的な意味で極めて体感的である。

「カッコいい」が六〇年代以降、日本で一気に広まったのは、戦後社会に「自由に生きなさい」と放り込まれた人々が、その実存の手応えとともに、一人一人の個性に応じた人生の理想像を求めたからである。社会的には、これにより、大きな「人倫の空白」が、複雑で多様なパズルのピースの組み合わせのように埋められることとなった。

「カッコいい」人やものを求めるのは、言わば自分探し^クである。だからこそ、私たちは、自分が「カッコいい」と信じている人を誰かから「カッコ悪い」と笑われると、まるで、自分自身を侮辱されたかのように腹が立つ。

メディアはその発見の手助けをするし、一度「カッコいい」と感じた感情を、継続的な情報で強化し続ける。結果、個人主義時代の多様な価値観は、ガイドとしてのマスメディアの影響で、流行としてしばしば統一、または画一化される。それは、キャリア女性のファッションといった、「恰好が良い」という意味に近いお手本の役割から、韓流スターの鳥肌が立つような「カッコよさ」を紹介する役割まで、様々である。

「カッコいい」対象は、古く硬直した体制を揺さぶり、新しい価値観を提示する。彼らは、「起源」になり得る、という文字通りの意味で、オリジナリティ *originality* があり、それがあまりに一般化し、マイルドな模範となった時には、「カッコいい」は「カッコ悪い」へと転落し、次なる「カッコいい」存在が必要とされる。

(平野啓一郎^{ひらのけいいちろう} 『カッコいい』とは何か) より)

(注1) 『白氏文集』 —— 唐の白居易^{はくきょい}の詩文集。

(注2) 五山 —— 足利義満が定めた臨済宗の京都五山(天竜寺・相国寺・建仁寺・東福寺・万寿寺)と鎌倉五山(建長寺・円覚寺・寿福寺・浄智寺・浄妙寺)のこと。

(注3) 物語る自己 —— イスラエルの歴史学者ユヴァル・ノア・ハラリが『ホモ・デウス』の中で用いた用語で、「経験する自己」が感じ取った感覚を、言語的に分析・解釈・判断・意味づけする自覚作用のこと。

(注4) 分人 —— 「これ以上分けられない最小単位「個人」という人間のとらえ方に対し、「一人の人間は様々な要素に分けられる「分人」という筆者の人間のとらえ方を示す造語。」

問一

「カンセキ」^ア「シヨミン」^ウ「ツチカわれた」^エ「シヤクト」^カ「ケツソク」^キの漢字と同じ漢字を含むものを、次の中からそれぞれ一つ選べ。

1 5

- | | | | |
|---|--------------|---------------|----------------|
| ア | 1 セキガンの主人公 | 2 アイセキの念にたえない | 3 セキズイの反射 |
| ウ | 1 ヒシヨ地の出来事 | 2 シヨメイ活動 | 3 シヨム課の仕事 |
| エ | 1 損害をバイシヨウする | 2 バイシンイン制度 | 3 細胞をバイヨウ液につける |
| カ | 1 貴族のシヤクイ | 2 シヤクメイの場 | 3 情状シヤクリヨウの余地 |
| キ | 1 実態をホソクする | 2 ソクリヨウ図をつくる | 3 ソクセキで演説する |
| | 4 時間にソクバクされる | 5 返答をサイソクする | 6 政治のテツソク |

問二

「同義反復」^Aの類義語として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

6

- | | | |
|----------|-----------|-----------|
| 1 トートロジー | 2 アルケオロジー | 3 オートファジー |
| 4 アンソロジー | 5 エコロジー | 6 コスモロジー |

問三 「通人」に最も意味の近い語として、7 適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

- 1 哲学者 2 粹人 3 隱遁者 4 偉人 5 芸術家 6 素人

問四

「重要なのは、これが社会の『人倫の空白』を埋める機能を果たしたこと」とあるが、本文全体の趣旨をふまえ、「カッコいい」という概念が「人倫の空白を埋める機能を果たした」ことについての筆者の考えの説明として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

8

- 1 「カッコいい」が示す理想的な調和状態からのズレの程度によって価値の序列化が行われ、武士道の主従関係や日常生活のルールとして機能するようになったということ。
- 2 マスメディアの発達によって専門家や通人による「恰好が良い／悪い」の判断基準が全国的に共有され、誰もが「良い／悪い」の判断ができるようになったということ。
- 3 「カッコいい」という言葉が爆発的に流行した一九六〇年代から今日に至るまで、社会的な理想の人物像に代わる新たな理想像を提供してきたということ。
- 4 「恰好が良い」があるジャンル内の評価であるのに対して、「カッコいい」はジャンルを前提とせず下せる評価である点に特徴があるということ。
- 5 「カッコいい」の根拠は専門家の間でつくられた趣味や理論ではなく、ある対象に「しびれる」という素朴な体感であり、だからこそすべての人間に開かれているということ。
- 6 「カッコいい」の語源の一つである「義理」という概念が社会構造や日常生活の行動基準となり、当時の人々の人生の理想像となったということ。

問五

「分散処理的に行う」の本文中の意味として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

9

- 1 コンピュータに行わせる
- 2 ネット上の集合知にまかせる
- 3 各自の負担を小さくする
- 4 責任の所在を曖昧にする
- 5 個人の自主性にまかせる
- 6 個人の行動を集積する

問六

「資本主義と民主主義とが組み合わせられた世界では、絶大な力を発揮するのであった」とあるが、それはなぜか。その理由の説明として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

10

- 1 マスメディアが十分に発達するまでは、個人の「しびれる」ような体験にもとづく良い趣味を示す「カッコいい」の影響力の範囲は限定的だったから。
- 2 「カッコいい」は素朴な「快感」だからこそ身体を備えたすべての人間に開かれており、マスメディアの側からみても売れる要素があることになるから。
- 3 社会の側からみれば個人の生理的機能を情報処理的に行うことが可能になり、個人の側からみれば人生の間を費やす対象を主体的に選択できるようになったから。
- 4 「カッコいい」という評価は個人の「しびれ」の感覚によって決められ、個人の「しびれ」の快感はマスメディアによる継続的な情報によって反復され強化されるから。
- 5 個々の「しびれる」ような体験は今日のマーケティングによって支えられており、ファン・コミュニティの場が主体性と利益性を両立させているから。
- 6 マスメディアは個人が一度「カッコいい」と感じた感情を継続的な情報で強化し続け、個人主義時代の多様な価値観がさらに多様化されるから。

問七

「強度^Dの競争」とあるが、「強度」の本文中の意味として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

11

- 1 どれほど夢中になっているか
- 2 どれほど魅力的か
- 3 どれほど耐久力があるか
- 4 どれほど冷静さを失わないか
- 5 どれほど感性が鋭いか
- 6 どれほど影響力があるか

問八

「一挙手^E一投足」の「挙」の意味に最も近い用法をふくむ語句として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

12

- 1 推挙
- 2 軽挙妄動
- 3 枚挙に暇^{いとま}がない
- 4 挙国一致
- 5 言挙げ
- 6 科挙^{いしよ}圧巻

問九

「生^Fさ甲斐」の「甲斐」の字をふくむ慣用表現として、正しくないものを次の中から一つ選べ。

13

- 1 年甲斐もなく
- 2 甲斐性がある
- 3 頼り甲斐がある
- 4 甲斐甲斐しく
- 5 不甲斐ない
- 6 青田甲斐

問十

「実存^Gの手応え」とは本文の文脈ではどのような意味か、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

14

- 1 現実の厳しさ
- 2 具体的可能性
- 3 個性の開花
- 4 生の実感
- 5 真実の重み
- 6 生活の便利さ

問十一

「カッコいい」人やものを求めるのは、言わば「自分探し」である」とはどういうことか、その説明として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

15

- 1 「カッコいい」存在が与えてくれる生理的興奮は、自己に対する否定的な「生きている」刺激である自傷行為的な痛みにかわって、自分の生に実感を与えてくれる人生の喜びとなるということ。
- 2 「カッコいい」存在に憧れを抱き同化願望を抱く人も、その対象を理想化し自らの価値判断の基準とする人も、自分とは遠いはずの対象をどこか自分自身のように感じているということ。
- 3 「カッコいい」は、戦後に与えられた自由の中で、よりどころのない実存的不安を感じた日本人たちが、一人一人の個性に応じて見つけた人生の理想像であったということ。
- 4 「カッコいい」と信じている人を誰かが笑うと自分を侮辱されたように感じるのは、多くの人間にとって「カッコいい」ことより「カッコ悪くない」ことが重要であることを示しているということ。
- 5 「カッコいい」という個人の感情はメディアからの継続的な情報で強化され、結果的に、個人の価値観はガイドとしてのマスメディアの影響で流行として統一されるということ。
- 6 「カッコいい」対象は古く硬直した体制を揺さぶる力をもつが、それがあまりに一般化しマイルドな模範となった時には、自分自身が「カッコいい」存在となって新しい価値観を提示するべきだということ。

問十二 本文の内容に合致するものを、次の中から二つ選べ。

16

16

の欄に、二か所マークすること

1 「カッコいい」の語源の「恰好」は九世紀半ばには日本に輸入され、室町時代から江戸時代にかけて五山の禅僧たちが多く使用するようになった。日本における「恰好」は理想像との調和の程度を示すようになり、今日の中国語での「恰好」の意味とは異なる使い方をされている。

2 鳥肌を立たせてくれる対象に憧れを抱き、同化・模倣願望を抱くようになる人もいれば、「カッコいい」存在に自分と共通するような点を見出し、対象を理想化するようになる人もいる。後者の場合は、対象に遠さと近さが同居しているように感じられることが重要である。

3 美しさや崇高さ、勇敢さ、凛々しさ、見事さ、華麗さ、聡明さ、などに触れて引き起こされる生理的興奮は、「カッコいい」という言葉によって言語化される。この言語化を誘導するのは外部環境や「カッコいい」存在自体であり、受け手の自我は圧倒され意識されなくなっている。

4 日本で「カッコいい」という言葉が爆発的に流行したのは一九六〇年代以降である。戦後、数多くの流行語が忘れられていく中で「カッコいい」が生き残ったのは、この言葉を使用したのが音楽関係者だったからだという説が有力である。

5 ファン・コミュニティはしばしば排他的であり、他のコミュニティと理解しあうことが困難な場合もある。それにもかかわらずコミュニティが求められるのは、ファンが「カッコいい」理想像を「仲間」と共有することで、理想化された対象からの「しびれ」を反復的に経験したくなるからである。

6 キャリア女性にとつてのファッションモデルも、韓流スターたちも、古く硬直した体制を揺さぶり新しい価値観を提示するという点でオリジナリティがある。私たちは自分のオリジナリティを「カッコいい」対象に投影するからこそ、自分の理想像を笑われると自分自身を侮辱されたように感じるのである。

〔二〕 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

若者に支持されている気鋭の監督が現在の映画界に存在しないわけではない。若者が身近に感じられる社会派作品は作られている。また、ミニシアターは減ったかもしれないが、動画配信サービスの存在は、1980年代や1990年代とは比べ物にならないほど世界中・多種多様の映画を、同じく比べ物にならないほど安価に観られる環境をもたらした。その作品について多くの人が論じ合う空間としては、SNSといううつつつけの場所も用意されている。

しかし、やはり評論のニーズは明らかに低下している。

評論が読まれなくなった理由として考えられるのは、おもに2つ。

ひとつめは、作品を体系的に観る習慣をもたない、コスパ重視思考の若者が増えたから。

「体系的に観る」とは、一例として、以下のような鑑賞法のことを言う。特定の監督や脚本家などの過去作を時系列順に観て、作風の変化を確認する。ホラー映画ならホラー映画の、ギャング映画ならギャング映画の、ジャンルとしてのヘンセン^イを追いかける。「ヌーベルヴァーク」や「アメリカン・ニューシネマ」といった同時代映画の潮流を意識しながら観る。アニメなら、スタジオや作画監督を追いかけたり、「ガンダムシリーズ」「プリキュアシリーズ」「東映魔女っ子アニメ」といったカテゴリ単位で視聴したりすることも、体系的視聴の一例だ。

硬派な映画専門誌にキコウ^ウするような老練の評論家には、類似作や作り手の過去作、あるいはその作品が生まれた時代性とともに作品を腑分けする手つきがよく見られる。つまり、ある作品を単体ではなく、それが含まれる潮流を体系的にとらえることで、批評的視点を発見するのだ。

となれば当然、読み手もその体系に含まれる作品群について、ある程度の知識や視聴経験がなければ、彼の書く評論を味わうことはできない。

しかし、「外したくない」ばかりに、おすすめされたお墨付き^D作品だけを上から順番にチェックしていく鑑賞姿勢は、体

系的な鑑賞とは程遠い。

「体系的に観る」作品の中には当然、明らかなダサクや自分の好みに合わない作品も山ほど含まれる。「観るべき作品をリストにして教えてほしい」と主張するタイプ重視派とは、きわめて相性の悪い鑑賞スタイルだ。

結果、作品を体系的にとらえることを読者に求めるような評論は、彼らにとっては縁遠いものとなる。

「ブラウザのタブを10個くらい開けて観る」Dさんは、最近観た映画で一番良かったのはスタジオジブリの『紅の豚』(監督・宮崎駿)だった。しかし他のジブリ作品を観てみようとか、宮崎駿の他の監督作を観てみようという気にはならないと彼は言う。

理由は「億劫だから」。

快適主義が徹底されているラノベには、従来からの文学作品のように「さまざまな作品を体系的に読み込み、批評する」という気運があまりみられない。『ライトノベル・クロニクル2010―2021』にも以下のような記述がある。少し長いが拾ってみよう。

「ラノベはその時々^ハに流行っているものはあっても、ジャンル読者がサカノボ^オって参照すべき(というより実際に参照して読み継がれている)作品がない。編集者も作家も『過去の名作を読まないと話にならない』などということはない。ラノベには『現在』しかない。(中略)言語化作業や歴史化する意志はキハク^カで、blogやTwitter^(注5)レベルを超えた議論はなかなか蓄積されない。されたところで、ジャンル読者に対してほとんど影響を持たない」

「体系的な映画の観方」でもっとも手軽なのが、監督名で映画を観ることだ。しかし映画関係者は口々に「映画を監督で観る人が減った」とこぼす。

大学生たち何人かに「最近観た、一番良かった映画」を対面で聞いてみた。近年の日本映画が何本か挙がる。ただ、監督名は誰も答えられない。

彼らは映画監督という職業に対し、作家性を支配する総責任者という認識はほとんど持っていない。

アニメ業界において原作を忠実に再現するタイプの作品が多い事実は、この傾向に拍車をかけている。原作つきの作品が

大学生たちの視界のほとんどを占めていけば、彼らにとってそれを映像化する人とは、別の建築家が引いた図面（＝原作）にしたがって実際に家を建てる「大工」のような存在なのかもしれない（だとすれば「現場監督」は理に適った役職名だ）。

評論が読まれなくなったもうひとつの理由。それは、評論家のような権威的な存在から、あるいは自信満々な気鋭の書き手から、上から目線で「正しい観方」なんて教わりたくないという反発心が、特に若年層のあいだで強いからだ。

Bさんは評論をまったく読まない。目に入って読むことがなくはないが、何かの参考にはしない。理由は「別に誰が何を感じてようが関係ないし、その作品を観て自分が楽しければそれでいい。他の人がこれをこう感じたとか、そういうのはあんまり気にしない」から。これもある種の、他者視点の欠如である。

彼らは、作品の謎や裏設定を解説する考察サイトや、ストーリーを最後まで詳しく記述するネタバレサイトは読んでも、評論は読まない。自分とは感性の異なる個人が、その感性をもって指摘する作品の良し悪しや腑分けには、それほど興味がない。

求めているのは中立的で客観的、かつ自分にとって有用性の高い情報や解説であって、誰かの個人的な所感ではないのだ。「こないだも友達同士で『るろうに剣心』の話題になって、自分が知らなかったことを別のやつが知っていたので『すごい』とは思いましたけど、それは友達だから。どこかの知らないおっさんが、俺はこう思うとか書いたものを読んでも、何もおもしろくない」(Bさん)

なんだか偉そうな肩書のついている他人が、自分の愛している作品を勝手に分析したり、採点したり、腑分けしてああだこうだとかき混ぜたりすることには、我慢がならない。ましてや、良い点だけでなく悪い点まであげつらって、「ここが良くない」などと意地悪に指摘するなんて、不愉快極まりないというわけだ。

彼らは自分が絶賛したものを絶賛しているテキストしか目に入れたくない。求めているのは多種多様な感想や解釈ではなく共感だ。それゆえ評論ではなくファンブックを買う。自分が好きなものを全肯定してくれる言説しか読みたくない。

ここでヒントになるのが、森永氏による「オタクになりたい若者たちが目指すのは、推し活動の楽しさ」である」という

主旨の指摘だ。

「押し活動であれば、自分が気に入っている作品を『貶げなされたくない』のは当然です。客観分析なんて必要としていない。押し活動は、推しが輝いていることが重要なので、輝きを失わせるようなことは言わないでくれますか？」という話です。

『私の彼氏／俺の彼女を悪く言わないで！』と同じメンタリテイですね(森永氏)

無論、そういった観客がすべてではない。大傑作だと思っ作品に対して、まったく異なる視点から切り込まれた評論に耳を傾け、「なるほど、そういう観方もあるのか」と納得する人も、もちろんいる。あるいは、その評論は妥当ではないと感じ、議論を戦わせる人も。

しかし、そういう行為には、相応の心の余裕と、脳を回すだけの思考コストがかかる。ストレス過多で、エンタメを觀賞する目的が「ストレス解消」の人間が、そんなことはしないだろう。

好きな作品を、好きな角度から、好きなように観て、ただただ愛めでたい。彼らが欲しいのは、純度の高い『快適』だけなのだ。

(稲田豊史『映画を早送りで観る人たち』より)

(注1) ヌーベルヴァーグ —— 1950年代にフランスで始まった映画運動と、その中でジャン＝リュック・ゴダールやフランソワ・トリュフォーらの監督によって作られた作品群を指す。

(注2) アメリカン・ニューシネマ —— 1960年代後半から1970年代中盤にかけてアメリカで起こった映画運動と、その中で作られた作品群を指す。

(注3) タイパ —— タイムパフォーマンスの略語で、「費やした時間に対する成果や満足度の度合い」のこと。

(注4) 『ライトノベル・クロニクル2010―2021』 —— 飯田一史著。2021年。

(注5) T w i t t e r —— 現在のX (エックス)。

(注6) 森永氏 —— 博報堂DYメディアパートナーズ メディア環境研究所・森永真弓氏。

問一

「気鋭の」^Aの本文中の意味として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

17

- 1 批評眼の鋭い
- 2 最も新人の
- 3 才能豊かな
- 4 感受性が繊細な
- 5 自信に満ちた
- 6 意気込みや勢いがある

問二

「うつつけの」^Bの本文中の意味として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

18

- 1 おあつらえ向きの
- 2 国の垣根をこえた
- 3 双方向的な
- 4 最先端の
- 5 自由に開放された
- 6 安心安全な

問三

「やはり評論のニーズは明らかに低下している」とあるが、本文全体の趣旨をふまえ、その理由として最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

19

- 1 作品を体系的に観る習慣をもたないコスパ重視思考の若者が増え、その結果彼らの多くが自分の好きなものを全肯定する〴〵推し活動の楽しさ〴〵を目指すようになったから。
- 2 読み手の側に評論を味わうために必要な体系的鑑賞経験と膨大な知識がなく、また権威的な存在から「正しい観方」なんて教わりたくないという反発心を抱いているから。
- 3 徹底した快適主義者である若者たちは様々な作品を体系的に観て批評することを億劫と感じており、そもそも彼らの多くが〴〵推し活動〴〵によって好きなものを愛でる気持ちを満たされているから。
- 4 作品を体系的に観る習慣をもたないコスパ重視思考の若者が増えると同時に、自分とは異なる視点からの意見に耳を傾け議論を戦わせる場としてSNSを選ぶ人が増えてきたから。
- 5 読み手の側に評論を味わうために必要な批評的視点がなく、彼らは映画監督という職業に対し作家性を支配する総責任者という認識はほとんど持っていないから。
- 6 若者たちは作品を生み出す背景となった潮流を理解したうえで鑑賞するのを億劫と感じており、誰かから「正しい観方」を教わることも望んでいないから。

問七

「『体系的な映画の観方』でもっとも手軽キなのが、監督名で映画を観ることだ」とあるが、その理由として最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

27

- 1 作品を体系的にとらえることを読者に求める評論を読むのが億劫な若者には、スタジオジブリや宮崎駿のよ
うな幼い頃から親しみのある作り手の作品をまとめて観ていくのが体系的視聴のきっかけとなるから。
- 2 アニメ業界において原作を忠実に再現するタイプの作品が多いという事実が大学生の映画監督という職業に
対する無理解につながっているので、実写作品を中心に監督の作家性を感じ取るような視聴体験が必要だか
ら。

- 3 特定の監督や脚本家の作品を時系列順に観ていくことによって、自分の好みに合わない作品や明らかな失敗
作も観る可能性を最小限にしつつ各時代の映画の流行スタイルを理解できるようになるから。

- 4 ある作り手の過去作を連続して視聴することで、その作品を作った監督の作風の変化を確認することが可能
になり、作品を単体ではなく、映画運動の潮流の中でとらえることができるから。

- 5 映画専門誌にのっている体系的視点をもつ評論を味わうには、当然、読み手もその体系に含まれる作品群に
ついて、ある程度の知識や視聴経験がなければならぬから。

- 6 「外したくない」がゆえに、おすすめされた作品を上から順番にチェックしていくような鑑賞姿勢より、あ
る監督の作品を時系列順に観ていくような鑑賞のしかたの方がタイパがよいから。

問八

「拍車をかけている」の本文中の意味として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

28

- 1 応援している
- 2 類似している
- 3 助長している
- 4 制裁を加えている
- 5 技術的に進歩させている
- 6 ブレーキをかけている

問九

「求めているのは中立的で客観的、かつ自分にとって有用性の高い情報や解説であって、誰かの個人的な所感ではない」とあるが、こういった若年層に対する筆者の根底的な考えとして、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

29

- 1 評論家のような権威的な存在から上から目線で「正しい観方」なんて教わりたくないという反発心は、若いうちにはむしろ好ましい感情である。また、自分自身の批評眼を確立するために中立的な情報を求めるという心理も年長世代からみて頼もしいものである。
- 2 評論をまったく読まない若者、あるいは読んだとしても何かの参考にはしない若者たちは、作品を観ても自分の楽しさが大事なのであって、他の人がどう感じたかにはあまり興味がない。このような若者たちにも、ある種の他者視点の欠如が認められる。
- 3 若者たちは評論家が指摘する作品の良し悪しや腑分けには大して興味がないが、作品の謎や裏設定を解説する考察サイトやネタバレサイトは読む。ということは、評論は読まなくても、彼らなりの評論的視点を持っているということである。
- 4 若者たちが評論ではなくファンブックを買うのは、彼らが求めているのは多種多様な感想や解釈ではなく共感だからである。それゆえ、自分が好きなものを共有する仲間を見つければ、自分とは感性の異なる相手に対しての攻撃性もだんだんとおさまってくる。
- 5 若者たちのすべてが自分とは異なる感性を拒絶するわけではなく、大傑作だと思う作品に対して、まったく異なる視点から切り込まれた評論に耳を傾ける人もいる。しかし、その評論は妥当ではないと感じた場合に、議論を戦わせるほどの社交性をもたないのである。
- 6 自分とは異なる視点の評論を読んだり議論したりするには心の余裕と思考コストがかかる。よって、ストレス過多に苦しむ若者たちは、自分が好きな作品を否定するおそれのない中立的な解説を好み、推し活動による純度の高い「快適」を求めるのである。

問十

「あだこうだとかき混ぜたりする」の本文中の意味として、最も適切と思われるものを次の中から一つ選べ。

30

- 1 色々と論評する
- 2 次々に順位を入れかえる
- 3 一方的に非難する
- 4 様々な順位をつける
- 5 自分のもののように語る
- 6 解釈を押しつけてくる

問十一

「言わないでくれますか？」という表現の説明として、最も適切と思われるものを次の中から一つ選べ。

31

- 1 からかいのニュアンスを含む依頼の文
- 2 からかいのニュアンスを含む反語的表現
- 3 悲しみのニュアンスを含む依頼の文
- 4 悲しみのニュアンスを含む反語的表現
- 5 非難のニュアンスを含む依頼の文
- 6 非難のニュアンスを含む反語的表現

問十二 本文の内容に合致するものを、次の中から二つ選べ。

32

32

の欄に、二か所マークすること

1 評論を読まない若者たちを理解するヒントになるのが「推し活動の楽しさ」である。自分の好きな映画をただただ愛でたいと思っっている若者たちの心理は、推しを貶されたくないと思っっているオタクの心理と同様、対象の客観分析など必要せず、自分自身の「快適」だけを欲するものである。

2 ホラー映画、ギャング映画などのジャンルを時系列順に観たり、「ヌーベルヴァーク」「アメリカン・ニューシネマ」といった時代ごとの潮流を意識しながら観ることは体系的視聴の一例である。さらに、特定の監督や脚本家の作風の変化を分析するところまで極めれば、評論を味わうこともできるようになる。

3 ラノベ読者には「さまざまな作品を体系的に読み込み、批評する」という気運、すなわち言語化作業や歴史化する意志があまりない。その点で、映画を観て感じたことを言語化し論じ合う習慣をもたないコスパ重視思考の若者との共通点がある。

4 映画関係者は口々に「映画を監督で観る人が減った」とこぼすが、映画監督という職業は大学生たちからは作家性を支配する総責任者と認識されていない。その原因は、近年の日本映画やアニメ映画の監督が原作を忠実に再現するタイプの「現場監督」に成り下がってしまったからである。

5 推し活動をする人にとっては推しが輝いていることが重要であり、自分の推しの輝きを失わせるようなことを誰かが言おうものなら自分の恋人を貶されたように感じる。そのメンタリティは映画ファンにも理解できるはずであり、若者であろうがベテランであろうが純粋な気持ちに優劣の差はない。

6 動画配信サービスは1980年代や1990年代に比べ多種多様な映画を安価に観られる環境をもたらし、SNSは映画について多くの人が論じ合う空間を提供した。ミニシアターは減ったが、以前より若者に支持される監督も増え、若者が身近に感じられる社会派作品も増えている。

次の〔三〕の問題はクリエイティブイノベーションシヨクを受験する者、またはクリエイティブイノベーションシヨクと映像学科を併願する者のみ解答すること。

〔三〕 次の文章は『松浦宮物語』の一節である。大将と明日香皇女の子である弁は恋い慕っていた神奈備皇女と偶然にも淡い一夜を過ごす。次の文章はそれに続く場面である。これを読んで、後の問に答えよ。

弁は、物思ひ添ひぬる心地して、父の殿に参りてうち臥したれど、目も合はず。いととう起きて、女王の君のもとに文書きたまふ。

「きのふなむ、行くらんわきもはじめて思うたまへられしかば、うれしき月日なれど、なほかくばかりのみまさる心地し侍れば、千重波しきてもすべなき世をなん思うたまへわびぬる。いでや、推し量らせたまへ。」

① 燃えに燃えて恋ひば人見て知りぬべき X をさへに添へて焚くかな

とあるを見せたてまつれば、あはれとやおぼすらむ、ただかくなむ。

② 見てしかば我こそ消なめ燃えに燃えて人の X は焚き尽くすがに

いとどながめのみせられて、いみじうしめりたる気色しるきを、大将殿は、「などかいと物思へるさまなる。男は、さばかりならぬだに、心をやりて、身を思ひ消たぬものなり。つかさくらるをはじめ、身にあまる面目をほどこすめるを、などかいたく思ひしめりて、ひとりのみある。あやしき有様かな。世にはふり物といふめれど、かくのみ思ひすましたるを見れば、いとなむあやふき。なほ、かれ真心にのたまはせ教へたまへ」など、母皇女に聞こえたまへば、ただうつくしとおほして、「まろは何事をかは教へむ。負へる子とぞいふなる。いまはましていみじう頼もしうぞあるや」とのたまふ。あはれと見たてまつるものから、「いかで」と思ふ心のみ添ひて、いみじう嘆かし。

③ あしひきの山の山鳥やまずのみしげき我が恋まして苦しも

ありしばかりだに、いかで思ふことの晴るけてしがなと思ひわたるに、この皇女は、内に参りたまふべきになりぬ。
 母后にもせちに聞こえさせたまへば、さらぬことだに否び申したまふべきにあらねば、居立ちておほし急ぐを聞くに、いといみじうおぼゆ。月明かき夜、くまなき空をひとりながめて、かくなん。

④ 山の端を出でつる月のすむ空のむなしくなりぬ我が恋ふらくは

(注1) 女王の君 —— 神奈備皇女付きの女房。

(注2) 行くらんわきもはじめて思うたまへられしかば —— 将来どのように進むか、その分別も初めて自覚されましたので。

(注3) 千重波しきても —— 幾重にも浜に波が打ち寄せるように、しきりにあなたを慕っても。

(注4) 心をやりて、身を思ひ消たぬものなり —— 気分を発散し、自分を卑下したりはしないものだ。

(注5) ふり物 —— 「天から降ってきた者」の意か。抜群の資質を持つ弁を礼賛する形容であると思われる。

(注6) かれ —— だから、ゆえに。

(注7) 母皇女 —— 弁の母である明日香皇女。

(注8) 負へる子 —— 「負うた子に教えられ」に近い意味の当時のことわざの一部であると思われる。

(注9) 母后 —— 神奈備皇女の母である后。

問一

「父の殿に参りてうち臥アしたれど、目も合はず」についての説明として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

33

- 1 弁が入内じめだい予定の神奈備皇女と一夜を過ごす不始末をしでかしたので、大将は弁と目も合わせてくれないといふこと。
- 2 逢瀬おうせが神奈備皇女との結婚を勧める大将の期待に添わないものに終わり、弁は後悔にとらわれて眠れないといふこと。
- 3 神奈備皇女と一夜を過ごしたことが嬉しい一方で恥ずかしく、弁は父大将と目も合わせずに横になったといふこと。
- 4 弁は神奈備皇女と一夜を過ごしたことで思慕の気持ちがかえって強くなり、横になっても一睡もできないといふこと。
- 5 夢にまで見た神奈備皇女との逢瀬かなが叶って有頂天になり、弁は横にはなったものの眠れそうにないといふこと。

問二

「あはれとやおぼすらむ」イ「あはれと見たてまつる」ウの動作主体の組み合わせとして、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

34

- 1 イⅡ女王の君 ウⅡ弁
- 2 イⅡ神奈備皇女 ウⅡ弁
- 3 イⅡ女王の君 ウⅡ大将殿
- 4 イⅡ女王の君 ウⅡ明日香皇女
- 5 イⅡ神奈備皇女 ウⅡ明日香皇女

問三

傍線部 a～e の文法的な説明として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

35

- 1 a は、強意の係助詞「なむ」で、文末の「わびぬる」は a による連体形係り結びになっている。
- 2 b は、四段動詞「思ふ」の連体形ウ音便と尊敬の補助動詞「たまふ」の未然形である。
- 3 c は、強意の助動詞「ぬ」の未然形と意志の助動詞「む」の已然形である。
- 4 d は、類推の意味の副助詞「だに」であり、「せめて」だけでも」と現代語訳される。
- 5 e は、謙讓の敬語動詞「参る」の連用形と尊敬の補助動詞「たまふ」の連体形である。

問四

和歌①・②の空欄

X

には掛詞かけごころとなる同一の語が入る。最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

36

- 1 なげき
- 2 くるしみ
- 3 なみだ
- 4 ふみ
- 5 なさけ

問五

「ありしばかりだに、いかで思ふことエの晴るけてしがなと思ひわたる」についての説明として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

37

- 1 その上先日くらの逢瀬までも、どうしたら恋の思いが晴らせるだろうかと思いつけたおかげであり
- 2 以前はわずかな逢瀬であっても、どうにかして恋の思いを晴らせないものかと思っていたのだが
- 3 以前はたとえ淡い逢瀬でも、どうして恋の思いを晴らせないことがあるかと思っていたが
- 4 先日くらの淡い逢瀬でさえ、何とかして恋の思いを晴らしたいと思いつけたことで実現したのだが
- 5 せめて先日くらの逢瀬でもよいから、何とかして恋の思いを晴らしたいと思いつけるうちに

問六

本文の内容についての説明として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

38

- 1 女王の君は逢瀬の翌朝早々に手紙を贈ってきた弁に同情して、入内する予定が決まっていた神奈備皇女にそれを伝えた。
- 2 弁は神奈備皇女に歌を贈ったものの、それに対する返歌がもう会いたくないという内容であったためにふさぎこんだ。
- 3 大将は弁を発憤させて欲しいと明日香皇女に助言を求めたが、皇女に断られたために納得できず、嘆かわしく思った。
- 4 弁は和歌③で、一・二句目の序詞じごごばによって「やまず」の語を引き出し、自らのますます募る恋の思いを独詠している。
- 5 神奈備皇女は入内の定まった身であるが、和歌④では「山の端を出でつる月」に去って行った弁を重ねてしの偲んでいる。

〔一〕

問題	一					二	三	四	五
	ア	ウ	エ	カ	キ				
番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9
解答	6	3	3	5	4	1	2	6	5

問題	六	七	八	九	十	十一	十二	
番号	10	11	12	13	14	15	16	
解答	4	1	2	6	4	3	2	5

〔二〕

問題	一	二	三	四					五
				イ	ウ	エ	オ	カ	
番号	17	18	19	20	21	22	23	24	25
解答	6	1	6	5	5	4	6	2	4

問題	六	七	八	九	十	十一	十二	
番号	26	27	28	29	30	31	32	
解答	3	4	3	2	1	5	1	3

〔三〕

問題	問一	問二	問三	問四	問五	問六
番号	33	34	35	36	37	38
解答	4	2	3	1	5	4